

記録を書いてみよう

所属 _____

氏名 _____

本講座では、入浴場面を例に取り、
「ケース記録」を実際を書いてみるワークを行います。

MEMO

介護職員として担当する利用者(事例)を紹介します。
読んで、利用者像を描いてみよう。

【事例】

Mさん 女性 83歳 要介護3

アルツハイマー型認知症

介護職員が入浴を促すと、拒否することが多い。

また、ズボンを頭からかぶるなど、着替えや身だしなみなどに失行の症状が見られる。コミュニケーションにおいては、簡単な受け答えはできるが、こちらからの問いかけに、筋違いな答えが返ってくることもある。

MEMO

Mさんの介護計画(入浴に関して)

入浴:本人に声かけの上、入浴の意向を伺います。
電子体温計で検温し、自動血圧計で血圧を測り、体調を確認します。
その後、入浴と、前後の着替え、整容などを促し、介助します。入浴後も体調を伺い、水分を勧めます。

MEMO

ある日の入浴介助の場面

介護職員が本人に入浴を勧めると、
「いいわよ、あとで」「あなたが入りなさい」と本人は拒んだ。
介護職員は、「わかりました」と受け止め、
間をあけてから再度、「今日はお散歩して汗が出ましたね。
お風呂でもいかがですか」と声をかけると、
本人は「そうね」と言い、入浴してくれた。

入浴前の血圧は130/82mmHg、体温は36.4℃。
顔色は良好。

MEMO

さあ、ケース記録を書いてみよう

ここまで挙げた情報で、ケース記録を書いてみよう。
細かな状況は、脚色して構いません。

次のことを意識してみよう

・利用者や家族が目を通す前提で作成

MEMO

書けましたか？
一緒に確認していきましょう。

MEMO

ポイント①:介護計画そのままになっていないか

MEMO

ポイント②: 今日ならではのできごとを入れる

MEMO

ポイント③:5W1Hを意識する

MEMO

ポイント④: 自立支援の視点で

MEMO

ポイント⑤:利用者・家族に共感する姿勢

MEMO

ポイント⑥: 対応ノウハウの積み上げ

MEMO

ポイント⑦: 専門用語・略語は使わない

MEMO

ケース記録の記入例

MEMO

記録は、これが正解、模範というものはありません。
介護職員一人ひとりが書いたその記録が、
利用者へのサービスの質を左右すると
自覚しておきたいものです。

MEMO

お疲れさまでした。